

検討が進められており用地、港湾、工業用水道、関連道路等の立地条件の整備進捗に伴って、本格的な企業進出の動きも活発になるものと期待される。

約一万年におよぶ八代平野と、不知火海の豊かな水産資源に恵まれたこの地区の開発にあたっては、特に、土地利用、企業の誘導にあたり公害防止について充分留意することになっている。

施設整備計画の主な概要は、次のとおりである。

交通施設

港湾

八代港は、昭和三十四年六月に重要港湾の指定、ついで四十一年四月に貿易港の指定、さらに、四十二年七月に木材特定港の指定をうけた。四十一年の貿易実績は、輸出二億八千万円、輸入十一億一千万円で県内貿易港取扱高のそれぞれ一七、四％一七、六％を占めており、今後の港湾整備の進捗に伴って貿易工業港としての比重はますます高まるものと期待される。

八代港整備事業は、四十年から四十四年度間では三十七億五千万円の事業費で行なわれている。

外港地区には、現在、水深九尺の一万の船舶が横づけできる岸壁二バースと水深七、五尺の五千少岸壁二バースが完成しており、さらに、四十四年度までに

水深十尺の一万五千少岸壁二バースが完成する見込みである。

なお、公共埠頭用地として、現在、十二万一千平方尺が完成しており、さらに、四十四年度までに二十万四千平方尺が完成する見込みである。

内港地区は、商港として整備をすすめることとし、四十四年度までに、水深五、五尺の二千少岸壁三バースを建設することになっている。なお、旅客輸送については、現在、水深三尺に浮さん橋四基があるが、今後の旅客増加に見合う施設の整備が望まれる。

鉄道

現在、進められている鹿児島本線の複線化は、八代地区は四十五年頃までに完成する見込みであり、さらに、電化についても四十四年度完成を目標に、現在早期着工を要望中である。複線化、電化が完成すると、本地区の鉄道輸送は、大幅に改善されるものと期待される。

なお、臨海工場用地への鉄道引込み線については、今後の企業立地に合わせて計画化し整備を図りたい。

道路

本地区の幹線道路として、東部の山地寄りに国道三号線が南北に走り、球磨川に沿って国道熊本宮崎線が、さらに、八代市街地から八代平野の中央部をつらぬいて主要地方道八代鏡宇土線がある。これら幹線道路と臨海工業地帯を結ぶ道路として、八代臨海道路の整備を促進するとともに

に、市街地と八代港を結ぶ八代港線等の街路の整備を図ることになっている。

また、九州縦貫自動車道は、八代市街の東部を通過する予想であるが、まだ路線の決定はなされておらず、熊本以北の完成と同時に完成を目標に、現在、基本計画への採択と早期着工を要望中である。

工場用地

内・外港地区あわせて約二百二十一万平方尺を予定している。

工場用地の造成は、港湾改修のしゅん濘土をもって埋立ており、港湾整備のテナポにあわせて実施している。すでに、内港地区十萬八千平方尺は完成しており、現在、外港地区の工場用地二百十萬平方尺のうち、四十二年までに十五萬平方尺、四十三年～四十四年度に六十萬平方尺の造成が見込まれている。

残りの用地については、企業進出の具休化にあわせて造成することになっている。

このほか、内港背後地にも工場適地がある。

工業用水道

県では、昭和四十年から着工した国営八代平野土地改良事業と共同で、球磨川の坂本村古田地点に新遙拝堰を建設

し、ここから工業用水として五、五五立方尺ノ秒を取水して、既存企業を中心とする内陸部と、新規に造成を進めている臨海工業用地に給水を計画している。

内陸工業用水道

県の起債単独事業として、四十年から着工し、おおむね四十四年度に完成の予定であり、四十三年には一部給水も予定している。既存企業に対しては、原水を供給する。

臨海工業用水道

国庫補助事業として浄水供給を予定し、四十一年度着工おおむね四十八年度完成の予定である。ただし、臨海部の専用施設については、企業の進出状況を勘案して実施することになっている。

その他

このほか、住宅・住宅用地・上水道・下水道・教育・厚生・通信などの生活環境施設についても、工業開発の進展に即応して整備をすすめることにしている。(企画第一課)

—八代港は貿易工業港としてその比重はますます高まっている。—

